

上級日本語コースにおける慣用句定着を促す試み：Book Creator を用いたリレー小説プロジェクトの実践から

上級と超級の学習者間では、語彙・慣用句・擬音語等の使用量の差が見られ、それらの使用量は超級の学習者が上級の学習者を上回るとされている(萩原、2011)。当大学でも、慣用句の紹介、練習をさせ、文作りの宿題等を与えていたが、他の言い回しで済ませられることから、なかなか定着しなかった。

語彙習得に関して、Barfield (2012)は、個人のトライ・アンド・エラーによって習得が促されるとともに、文脈の中で用いることにより、単なる知識を実際に使える知識にすることができることを主張している。また、藤井 (2011) は、読解による語彙習得を目的とする教導的学習の効果を分析し、学習者が作成した教材を扱う活動では、自律的な語彙学習や知識・情報の獲得、モチベーションの向上などにつながることを示唆している。そこで、今回は慣用句の定着を目的としたリレー小説を行うこととした。

リレー小説とは、複数人が順にストーリーを書き、一つの小説を作り上げるものである。実施したのは、2023年春学期の当大学の上級コースで、文脈の中での慣用句の使用に慣れること、読解力を高めること、クリエイティブライティング能力を高めることを目標とした。流れとしては、まず、前の学習者が書いた小説の続きを読み、授業で紹介した慣用句の中から一つ以上の慣用句を選び、その続きを書く。その後、教師による添削を受け、書き直したものを再度提出し、それを Book Creator に挿絵とともに載せ、授業中に読んで発表するという形で進めた。本発表では、活動の前後で行った慣用句クイズの結果や学生へのアンケート結果を基に、その成果や課題について検証する。